



表現のため英文法

田中茂範(著)

1.1 時制

動詞が担うのは「モノを関係づける」はたらきだけではありません。

Mary opens the window. と Mary is opening the window. と Mary opened the window. を比べてみてください。「メアリが窓を開ける」ということは共通していますが、それぞれが表す事態は以下のように異なります。

- Mary opens the window. ([朝起きると習慣として]メアリは窓を開ける)
- Mary is opening the window. ([今、まさに]メアリは窓を開けている)
- Mary opened the window. ([過去のある時点で]メアリは窓を開けた)

ここでの違いはいわゆる「時制」の違いです。つまり、動詞には時制を調整することでいろいろな事態を表現するはたらきが備わっています。そして、英語の時制の取り扱いについては、テンスとアスペクトのふたつの概念が決定的に重要です。「テンス」は動詞の形に現れるもので、英語では現在か過去しかありません（未来を表現するのに使われるwillは現在形で、その過去形がwould）。しかし、文を構成する主要な動詞には、テンスだけでなく、アスペクトも含まれています。ここでいう「アスペクト」とは、動詞が表す物事のありよう（相）を表すもので、英語では、以下のように単純相、進行相、完了相、それに完了進行相があります。

テンス	<u>単純相</u>	<u>進行相</u>	<u>完了相</u>	<u>完了進行相</u>
現在	現在単純形	現在進行形	現在完了形	現在完了進行形
過去	過去単純形	過去進行形	過去完了形	過去完了進行形

単純相、進行相、完了相、完了進行相には下記の特徴があります。

- 単純相→「動き・変化を伴わず、静止画的なありよう」
- 進行相→「動き・変化を伴う、動画的なありよう」
- 完了相→「何かが行われた状態のありよう」
- 完了進行相→「何かはずっと行われてきた状態のありよう」

●英語の時制をすべてカバーした8文

以下の8文は英語の時制をすべてカバーしています。形が違えばそれが表す状況が異なることに注目し、時制の全体像を押さえましょう。

- I make a call.
現在単純形：電話をかける。
- I made a call.
過去単純形：電話をかけた。
- I'm making a call.
現在進行形：電話をかけている。
- I was making a call.
過去進行形：電話を（ある時）かけていた。
- I have made a call.
現在完了形：電話をかけたところだ。
- I had made a call.
過去完了形：（過去のある時点までに）電話をかけていた。
- I have been making a call.
現在完了進行形：（さっきから）ずっと電話をかけている。
- I had been making a call.
過去完了進行形：（過去のある時点まで）ずっと電話をかけていた。



1.1.1. 現在単純形

I get up at seven. や She gets up at eight. の get up や gets up が現在単純形です。みなさんは「現在形」として理解されているのではないかと思います。単純アスペクトであるということがこの表現を理解する鍵になります。そこで、「現在単純形」と呼びます。

現在単純形の関連動画はここをSCAN



現在単純形は現在を語る表現ですが、その特徴は何か？ひと言でいえば、動き・変化が表現されない、ということです。Jack hates cats.（ジャックは猫がきらいだ）、She has beautiful blue eyes.（彼女は美しい青い目をしてい

1.7 分詞構文

分詞には、状況を描写する分詞構文があります。接続詞を用いた表現が、明らかな状況を描写するのに対して、分詞構文は余韻を残しつつ状況を描写する手段だといえます。例えば、ふたつの文を比べてみましょう。

- When I opened the door, I saw Mary lying on the sofa.
(ドアを開けたとき、メアリがソファに横たわっているのが見えた)
- Opening the door, I saw Mary lying on the sofa.
(ドアを開けると、メアリがソファに横たわっているのが見えた)



When I opened the door... では、「私がドアを開けたとき」はある過去時において行為が行われた時点が明確に示され、そのあとに「そして～した」にあたる別の過去の行為が表現される形です。これに対して、Opening the door では、「ドアを開けると」という意味合いで、ドアを開けている状況を示し、その状況と重なりあうような形で次の行為が表現されます。Opening the door の部分だけでは、時間的に何時のことなのか、「時」「条件」「理由」などのうちどういう意味を表すのかの判断は、後に続く情報を待たなければなりません。

こうしたことから、ふたつの行為の連続性、同時性を表現するのに分詞構文は効果的です。

1.8 動名詞(doing)

日本語でも「～すること」「～するのは(を)」で動作を名詞として扱うことがあります。「毎日泳ぐことは健康によい」とか「毎日泳ぐのは健康によい」という言い方がその例です。英語では、Swimming every day is good for your health. と表現し、swimming をそのまま主語として使います。このswimming は「動名詞」と呼ばれ、「泳ぐこと」に当たります。

He is swimming in the river. (彼は川で泳いでいる) のような進行形のdoing と動名詞のdoing は何が違うのでしょうか。進行形の doing は「現に何かをしている」という具体的な動作を表します。しかし、動名詞のdoing になると実際の動作を表すのではなく、「何かをすること」という頭の中で思い描く内容(アイデア・考え、記憶など)を表すのです。

たとえば、I enjoy playing the piano. は「ピアノを弾くのが楽しい」という意味合いですが、この表現を発話するときに、たいてい、実際にピアノを弾いているわけではありません。頭で思い描いてplaying the piano といっているのです。

アイデアや記憶は頭の中にあるものなので、動名詞は imagine (想像する) や remember (覚えている) といった動詞と相性がよく、Can you imagine working with that obnoxious man? (あんないやなやつと一緒に仕事するって考えられる?) や I remember talking to Mr. Sato. (佐藤さんと話をしたのを覚えています) のように使う

ことができます。ところが、I have to remember to talk to Mr. Sato. だと「佐藤さんと話をするのを覚えていなければならない」ということで、これは実際にこれから話をするということが前提にあります。

動名詞の関連動画
はここをSCAN



●動名詞は完全な名詞

動名詞は(実際の進行動作を表さない)抽象化された概念なので、時間的に中立で、過去のこと(記憶)にも、これからのこと(アイデア)にも使うことができます。言い換えれば、動名詞は「完全な名詞」だということです。だからこそ、主語の位置に使って、Swimming every day is good for your health. といった表現が自然なのです。